

8月
2018年

146号

地域共創・未来共創の大学へ

広 沖縄大学 幸報

発行

沖縄大学 経営企画室

〒902-8521 沖縄県那覇市字国場555

☎ 098(832)2910

<http://www.okinawa-u.ac.jp>

特集

沖縄大学創立60周年記念式典・祝賀会

学長インタビュー「60周年を迎えて」

OKIDAI VISION 2028 策定

体育会競技部の活動報告

(FD見聞録)教師として



学生食堂 (TERRACE 555) に集う学生たち

学長コラム ⑫

愛される沖大

仲地 博

60周年記念事業の目玉である学食は見事に完成した。驚いたのは厨房やレジのお姉さんたちが揃いのエプロンにベレー帽とおしゃれなでたちで、街中のイタリアンレストランに見間違つばかりだったことだ。ガクショクというより、テラス555という名付けは相応しい。

学生生活の改善に大いに寄与するが、これは同窓会、後援会はじめ多くの方々の支援の賜物である。寄附金は目標額の6割に到達している。金融機関や大手企業グループはまとまつた額を寄附してくれありがたかった。

うれしかつたのは、大学近くに事務所がある「沖海工」という企業である。経営企画室から寄附の趣旨説明に伺いたいと電話したところ、社長が直接電話に出てくれ10万円を寄附して下さった。当初5万円の寄附にしようとしたそうだが、職員の誠意が伝わったのであろう、「対応がよい」と、電話の途中で10万円に変更したという。理事長ともどもお礼に伺つたら、「こんなに喜んでくれるなら寄附もやりがいがある」とおっしゃり、恐縮した。

特筆したいのは、学内で行つてゐるミニデイサービス利用者の皆さまからの寄附である。このデイサービスは、社会福祉協議会が市内の各所で行つてゐるが、沖縄大学では福祉文化学科の学生が積極的に参加しており、事実上共催のようなものである。利用者一同から60周年事業に寄附をしたいというありがたい申し出があつた。金額が10万円と知つたときは、感動した。利用者の皆さんのお話を聞いてみると、「私は大学に行つてゐる、と周囲に自慢できるのよ」「沖大でのデイサービスは学生さんがいっぱいいるから楽しい」、「お礼の気持ちを形にしたかった」と日々に話してくれた。現役世代ではない皆さん、年金の中から寄附して下さつたのだ。3ヶ月間カンパン箱を置き、毎週少しづつ積み上げていつたという。市民に愛されている、全国にこんな大学はないのではないか。涙腺の弱い私はウルウルした。

沖縄大学の長期ビジョンは10年後の沖縄大学像を、「地域がキャンパス、地域のキャンパス」と謳つてゐる。沖海工もデイサービスも、地域とともにある沖縄大学の姿が現れたと思う。「地域のキャンパス」の萌芽はあるのだ。



創立60周年記念式典・祝賀会

6月9日、創立60周年記念式典・祝賀会が挙行されました。

1958年6月10日に沖縄短期大學として開学した本学は、本年度創立60周年を迎え、6月9日に「創立60周年記念式典・祝賀会」を開催し、沖縄県副知事 謝花喜一郎氏をはじめ

城間幹子那覇市長、稲嶺恵一元知事、行政、企業、同窓生、後援会、大学関係者など約200人にご出席頂き、60年の節目を祝いました。仲地博学長は「県民の支援を背景



仲地博 学長

に、県内で最も古い私立大学として今日を迎えることになりました。地域と共ににある大学という本質は創立以来一貫して変わらず、また常に発展し続けてきました。次の10年に向け、沖縄大学は、地域をキャンパスとし地域を歩き、地域の人々は沖縄大学をキャンバスとして集う、「人」と「知」が交流する拠点を目指します。学生そして教職員一同、同窓会、後援会と手を取り合い地域共創未来共創の大学を築きます。」と開学60周年を迎えた喜びと、今後の本学の方針を明言し、未来に向けてさらなる飛躍を誓いました。

大盛況の祝賀会

式典後、引き続き行われた祝賀会は、同窓生の金城フサ子琉舞研究所による「かぎやで風」で華やかな幕開けとなりました。

来賓の挨拶で同窓会の友利浩会長は「創立100周年を目指して、県民のニーズに応え、沖縄そして日本の未来をリードしていく優秀な人材育成のための環境づくりに総力を挙げて支援していきます。」と、大学の更なる発展へ向けた支援について決意を述べられました。

学生による空手の演舞、吹奏楽の演奏を堪能し、記念事業の報告を兼ねたビデオ上映も行われました。最後は「100年大学を目指して」の掛け声とともに職員の力強い一本締めが行われ、大盛況のうちに幕を閉じました。



司会:フリーアナウンサー當銘 直美さん(本学卒業生)



本学の特色ある講義のひとつ「沖縄大学論」。これまでご登壇いただいた皆様の講義が一冊の本となり、祝賀会当日、配布されました。沖縄大学の歴史について、沖縄大学の学びについて、そして沖縄大学が人生のキーポイントとなつた等、貴重なお話がたくさん詰まつた一冊です。



世界や日本の「激動の20世紀」、その中誕生し成長してきた本学のこれまでの歩みを年表にし、巨大パネルを設置しました。また、本学の歴史を映す品々も展示しています。是非一度ご覧ください。

「沖縄大学論」が一冊の本に

「歴史資料展示エリア」新設



学生食堂

TERRACE 555 オープン！

2018年6月21日10時30分、学生そして教職員念願の学生食堂がオープンしました。

開放的かつモダンなスペースの店内は、メイン席79席、テラス席をあわせると約250席の利用が可能です。これまでお弁当や近くの定食屋さんで昼食をとっていた学生や教職員にとっては、温かくそして低価格な食事が学内で食べられるということで連日多くの大学関係者に利用されています。

健康や美容等に配慮したメニューには栄養バランスが表示されているほか、週単位でメニューが変わるので、飽きることなく利用できると好評を得ています。一日に必要な食品目を取り入れたお弁当にも力を入れている等、愛情いっぱい、魅力いっぱい、笑顔いっぱいの学生食堂です。

◆営業時間 / 月～金 10:30～14:00 (ラストオーダー 13:30)



学生食堂、最初のお客様はこちら！
喜瀬 裕貴くん（法経学科1年次）「明るい
雰囲気がとてもよいので毎日でも利用し
たいです」





沖縄大学創立60周年を機に、飛躍する10年のスタートをきる！

仲地博学長創立60周年
記念インタビュー

60周年を迎えて今、想う事――

創設者の嘉数昇先生は教育の機会均等を求め戦後の向学心に燃える人々の学びの場所を創ろうとした。「地域社会のための大学」、「沖縄発展の屋台骨としての沖縄大学」、「住民による住民のための大学」、「沖縄のブレーン的役割」と願つた創設者の想いを繋げて沖縄大学は存続してきた。その時代時代に地域社会と共にあり、地域に必要な人材を育成するという志を60年前から抱き歩んできたのが沖縄大学である。

現在、「地域」に目を向けた大学が数多くなってきた。社会的にも地方政府や地方自治について多く語られる中、やつと時代が沖縄大

学に追いついてきたのではないかと思う。本学30周年の際には「地域に生きる、開かれた大学」との理念を打ちだし、50周年の機には「地域共創・未来共創の大学へ」と発展的に理念を表明してきた。50周年から10年は安定と発展の時代であつた。さらに60年目の節目を迎えた新たな発展期を迎えている。これから飛躍する10年を見据えることができるその時期に沖縄大学の一員であることを大変幸運であると感じている。

沖縄大学の発展期――

60周年を迎えた現在の沖縄大学は躍動している。学生食堂の整備にあたり学食名を「TERRA CE 555」と命名したが、「555」は今の沖縄大学を象徴するキーワードに感じる。555は立地的なこと（大学の住所、国場555番地）に由来するが、偶然にも60周年記念の土曜講座が555回目を迎えたこと、山代寛副学長が「555『GO! GO! GO!』行け！行け！」と説明していたが、上り調子の大学だ。教員採用試験の合格者数38名や、行政書士試験への現役合格者の増加、法経学科の学科改革、『沖縄の業界地図2017』

の出版のようなゼミ活動から発展的な社会への貢献、文科省の私立大学研究プランディング事業の選定、そして来年4月には沖縄県内で初となる管理栄養学科の新設を控えている。躍動する中で60周年を迎える。新たなスタートを切ることをとても嬉しく思う。

地域に愛される大学――

最近、特に嬉しかった出来事があつた。学内ミニデイサービスが行われている。那覇市社会福祉協議会の主催だが、福祉の学生が



創立60周年祝賀会（宮古毎日新聞社提供）

大学に行くこと 자체も楽しいとい
う心理的なプラス面を感じている。

学生と交流できることだけでなく、
大学に行くこと自体も楽しいとい
う心理的なプラス面を感じている。
その利用者が大学へ、日頃の思い
を表したいと寄附金を集めてくれ
た。金額は10万円。年金から寄附
してくれた方々の思いに触れ、沖
縄大学は地域の人々に愛される大
学であることを感じ感動した。益々、
沖縄大学ファンは増加している。

沖縄大学の価値、魅力について

教員採用試験の合格者や行政書
士試験の合格者の半数は特別な進
学校ではない地域にある普通高校
出身、又は専門高校からの進学者
であることに着目してほしい。沖
縄大学は大学入学後に学生の力を
伸ばすことができる教育力がある
大学である。

また、トランスジエンダー（心
と体の性が一致しない人）の学生
の勇気ある行動により、人権の大
きいられる場所、そして活躍で
きる場所である証となつてきてい
る。

士試験の合格者の半数は特別な進
学校ではない地域にある普通高校
出身、又は専門高校からの進学者
であることに着目してほしい。沖
縄大学は大学入学後に学生の力を
伸ばすことができる教育力がある
大学である。

10年後の沖縄大学像を明らかにし
て、それに向かって歩んでいくことは
理事長からの指示で始まった。的確な
指示をしてくれたと感じ、その思いに
応えるために作成に力を注いできた。
本学O.B・O.Gをはじめ、企業人、自
治体職員、元学長、教職員より沖縄大
学に対する意見を聞くことから始め
た。その意見を集め、知恵を絞つ
て夢を描いたのが「OKIDA
VISION 2028」である。描い
た絵のままにならないように、折に触
れ確認する必要があり、着実に実行し
ていきたい。衆知を集め一文一文に願
いを込め、想いを込め、作成したもの
である。

長期ビジョン作成にあたってー

これからの沖縄大学はー

沖縄大学を市や市民の公共財とし
て捉えてほしい。地域の公共財だと
評価される、思つてもらえる大学に
なつたら必ずや支持が集まり、人気
の高い大学になると思う。

本学で行われた那覇市の議会報告
会の時に、ある市民がこう述べた。「真
和志地区から市民会館も県立図書館
も移設され、主要な市の施設がなく
なる。沖縄大学を那覇市の大学にでき
ないか、那覇市の財産にできないか」と。直結は
しないけれど、私が種をまきたい最後のテーマが

「沖縄大学の公立化」である。理事長の
指示もあり、今後、検討課題にしてい
きたい。

10年後長期ビジョンの実現に向けてー

特色を出して、地域に存在感がある
大学にならなければならない。文科省
の動向を見ると経営難の大学は撤退
を促そうという姿勢が見て取れる中
で、激動の10年の船出にあたり、全教
職員で挑んでいく。

職員へ

教育は教室の中だけではない。大学の機能全
体で学生を支える沖縄大学。職員の力は大きい。
教育の機能の担い手であることを再確認してほ
しい

沖大ファンの方々へ

60周年を機に掲げた「地域がキャンパス 地
域のキャンパス」という長期ビジョンは地域の
人々が沖縄大学で出会い、共創すること。
市民から愛される大学づくりを目指します。



長期ビジョン検討ワークショップ (2018年5月8日)

OKIDAI VISION 2028 策定にあたって

創立50周年を、沖縄大学は安定と発展の時代として迎えた。

文部科学省が展開した GP—全国大学の模範となる優れた取り組みを顕彰し援助する事業一を 7 つのプログラムで採択され、「教育の沖大」を誇りを持って自称することができた。地方大学としては、異例の成果であり、沖縄大学が現代日本の教育の弱点を解明しそれに対する処方を示すことができる大学であることを文部科学省が認めたのである。

また現在人気学科となっているこども文化学科が発足したのも 50 周年の前年である。50 周年から今日にいたる 10 年間、地域共創・未来共創の大学として確かな歴史を刻んできた。

地域研究所が地域共創の活動拠点とあることを組織的に明確にし、内部に地域共創センターを置き、所長の下副所長二人体制を確立した。研究においては、地域研究所とともに現代沖縄研究科が両輪となって地域研究を担っている。地域研究の実績の上に、文科省の補助事業である私立大学研究プランディング事業「沖縄型福祉社会の共創」は、わずか 40 大学の一つに選ばれ、60 周年に花を添えている。

教育の面においては、こども文化学科を中心に教員採用試験は年度ごとに合格者を増やし、2017 年度は 38 名の大量合格を出し、学生を伸ばすことのできる大学として社会的評価を獲得している。学生支援課が主導する「チャレンジ沖大生」、地域研究所が主催する「琉球弧研究支援プロジェクト」など、沖縄大学憲章に宣言する「学生を大学の主人公にすえ、学生の可能性を最大限に引き出し、学生の主体的な参加を得て、更に活力ある沖縄大学」へと、全学レベルで組織的取り組みが行われてきたことを示している。

施設面においては、長田第二駐車場の取得、大学本館体育館の新築(50 周年事業)、沖縄大学アネックス共創館の供用など格段の整備が行われた。

2018 年、沖縄大学は還暦を迎える。法経学科の教育改革、健康栄養学部の開設等新しい発展を展望しつつ 70 周年に向けた船出をしようとしている。

長期ビジョンは、沖縄大学憲章を戴きつつ近未来である 10 年後の輝かしい未来像を描くものである。学生、同窓生が誇りある大学を手を取り合って築きたいと決意している。

2018年6月10日

沖縄大学学長 仲地 博



具体的な将来像

沖縄大学は創立 60 周年に際し、2028 年までの長期ビジョン“OKIDAI VISION 2028”を掲げます。10 年後の将来像として、沖縄大学憲章「地域共創・未来共創の大学へ」を具体化した 3 つのありたい姿と、新たな共創に挑戦する 4 つの姿の実現に向かって歩んでいきます。

① 沖縄大学という場 ～地球市民・地域市民の共育の拠点～

年齢・性・出身・職業・障がい・国籍・信条を超える多様な人々が行き交う地域のホットスポット

多様性に満ちた社会の中で、沖縄大学に集う多様な学生・教職員は互いに学び、学びを求めてやってくる地域の人々と共に学ぶ、活気あふれるキャンパスとなります。

② 沖縄大学の教育・研究 ～地球環境・地域環境に貢献する教育・研究～

持続的発展を目指し、自治体・経済界・地域社会と連携しながら地球と地域の重要課題に果敢に挑戦する教育・研究

地域の重要課題に取り組む研究は地域のシンクタンク機能となり、地域の課題に向き合う教育は人類共通の課題である持続可能な開発目標（SDGs）へつながります。

③ 沖縄大学の学生像 ～共創力を育む大学教育への変革～

大学と地域を行き来し、対話・共創・実践の中から地域の未来を語るフィールドワーク

沖縄大学の学生は大学で学び、地域で学びます。教職員、卒業生、地域の人々など多様な学びの主体と積極的に交流し、共に学び、歩きながら未来を考えます。

④ 沖縄大学の新たな共創への挑戦

小さな大学の機動性を活かし、時代と地域の要請にスピード感を持って応える大学

夢や憧れを胸に對話を重ね、社会の情勢をよく見、変化を恐れず、他の大学にはない特色ある大学として地域からの評価を得ます。

同窓会・後援会と大学が一体となり、地域の中核人材を輩出し続ける大学

「ピカリと輝く大学」（同窓会長）、「キリッと辛い大学」（後援会長）の想いを大切にして、同窓会・後援会と強く連携し、地域で活躍する学生を育てます。

学生が誇り高く躍動し、地域が共鳴して新たなステージを創り出す大学

「沖大アイデンティティ」を醸しだす多様な活動に学生が挑戦し、地域がそれを見守り、また参加してくる求心力ある大学を創ります。

教職員が互いを尊重し、一丸となって力を発揮できる職場を創り、学生の成長を支援する大学

沖縄大学の教職員は互いの多様性を尊重し、心を合わせてより働きやすい職場環境を創り、もって学生の成長に最大の関心を寄せます。

“OKIDAI VISION 2028”の実現に向けて

① 法人の将来像：法人は、経営面から沖縄大学の活動を支えます。

激変する社会環境に柔軟に対応し得る組織改革と経営基盤の強化

大学を取り巻く社会情勢が厳しさを増す中、様々な課題に迅速に対応するため、法人全体のガバナンスを強化するとともに、修学環境の向上に資する計画的なキャンパス整備と適正な人事管理体制の確立及び柔軟性・機動性のある組織改革を推進し、更なる経営基盤の強化を実現します。また、将来展望の中で、社会が要請する学部学科の新設や公立化の可能性等、沖縄大学の在り方について多面的な検討を行ないます。

② 中期経営計画で実現に向けた重点課題・基本戦略を設定し、年次計画で実行します。

長期ビジョン「OKIDAI VISION 2028」は、第五次中期経営計画（2019年～2023年）及び第六次中期経営計画（2024年～2028年）の10年間で実現を目指します。

沖縄大学入学式

2018年4月1日、本学体育館で2018年度入学式が行われました。入学生を代表して、人文学部福祉文化学科、儀間泰清さんが「大学生活の中で、意識を高く持って努力し、地域や沖縄だけでなく、日本の先頭に立つという強い気持ちで、日々精進したい」と力強く宣誓。

法経学部242名、人文学部284名、大学院9名、合わせて535名の新入生が、大学生活への新たなスタートを切りました。



学長式辞（抄録）

ご入学おめでとうございます。国公私立併せて全国に800近い大学（短大除く）の中で、この特色ある大学—沖縄大学に集うことを、沖縄大学全教職員、同窓会そして後援会など関係者全てが大変嬉しく思っています。

沖縄大学は今年6月創立60周年を迎えます。沖縄では琉球大学に次ぐ古い歴史を持つ大学です。皆さんはその記念の年に入学しました。

【沖縄大学の創設】

沖縄大学の設立母体となった財団法人嘉数学園が設立されたのは、1956年（昭和31年）です。

創設者嘉数昇先生の沖縄大学創設への想いを要約すると、「沖縄大学は地域の課題に取り組むことを使命とし、地域に愛情を持つ人材を育成する」ということです。今日全国で多くの大学がその理念として地域貢献を謳います。地域創成学科、地域行政学科、地域デザイン学科などがあちこちの大学に生まれています。流行といつていいほどです。それに対して沖縄大学は生まれながらにして地域とともににある大学でした。

「都市問題」という専門雑誌があります。去年の2月号の特集テーマが「地域のなかの大学」です。その中で小林功英（こうえい）さんという大学関係の専門家がそのものぞばり「地域共創」というテーマで書いておられます。全国の大学で、地域共創のユニークな活動をする大学を7大学取り上げていますが、その一つが沖縄大学です。沖縄大学は、地域活動で注目される大学なのです。

【60周年記念事業】

今年6月10日沖縄大学は60周年を迎えます。それを記念する事業が只今進行中です。まず一つはアネックス共創館の整備です。キャンパスから徒歩6分の所にオープンしたアネックス共創館は地域に開かれた諸行事を行います。小さいですが人工芝を張ったグラウンドがついています。

二つ目が学内食堂の開設です。本館の多目的学習室の上の階を現在改装工事中です。後援会の支援で大変安い値段でお昼ご飯を食べることができます。

三つ目が本館1階に歴史資料展示エリアを作ります。沖縄大学の歴史が目で見えるようにしたいと計画しています。例えば46年前米国から日本へ沖縄の施政権が返還されたとき、文部省は沖縄大学を大学として認めず、廃校の危機に瀕しました。苦しい存続闘争が始まります。県民の支援を得て存続を勝ち取りめでたく60歳を迎える今の沖縄大学があります。その歴史をぜひとも学んでいただきたいものです。

本日特に述べたいのが、本学の同窓会です。この入学式にも同窓会の役員の皆さまが多数ご列席ですが、本学に寄せる熱い思いをぜひとも知りたがっていただきたく思います。沖縄大学にはかつて学園歌がありましたが現在歌われておりません。在学生卒

業生がともに歌える歌があればいいと、お二人の先輩が、60周年を記念し学生歌を贈呈して下さいました。澤田清先輩は、「郷里共創の旗掲げ」を、幸地正博先輩は「永久の輝き」です。二つとも沖縄大学の理念と誇りを歌いあげています。今日の式典の始まる前に会場に流れていたのがこの2曲です。

また昨年は、同窓会有志が中心となり「沖縄大学支援同志会」が設立されました。物心両面の支援が目的です。同窓会の期待に応える元気な学生を育てたいと思います。

【沖縄大学の今】

60年は人間でいうと還暦です。人生の節目で新しいスタートを意味します。沖縄大学は、上り調子の中で還暦を迎えます。昨年度教員採用試験は、卒業生を含め38名が合格しました。行政書士試験は在学生が3名合格しました。法経学科のゼミ学生が執筆し編集した「沖縄の業界地図2017」（業界地図というタイトルの書籍です）は、6千部を売り上げ沖縄関係書籍では驚異的ベストセラーになりました。スポーツ系のクラブも硬式野球部、空手道部、サッカー部、男子バスケットボール部等が県内外の大会で優勝するなど活躍しました。

来年4月に向け新しい学部「健康栄養学部」の設置を準備中です。沖縄大学は県都那覇市に理系学部を持つ総合大学へと一歩を進めようとしています。

【沖縄大学憲章】

沖縄大学は、大学の教育研究の理念を「大学憲章」として定めておりますが、憲章はこう述べています。「沖縄大学は、地域に根ざす大学として沖縄にしっかりと根をおろし、教育と研究の相乗効果で沖縄の活性化に尽力し、そのことを通じて学生を共育し大学の活性化を図ります」外国人を含む沖縄県外から来られた皆さん、沖縄大学のこのような姿勢は、皆さんを視野の外においているわけではありません。沖縄大学での学びは、必ずや皆さんのが視野を広め、それぞれの地域の中核的人材へ成長させるでしょう。沖縄で育ち、北海道で学んだ私がそのことを保証します。

【結語】

沖縄大学は、60名余の専任教員、100名の職員、150名の非常勤の教員が全力で教育に当たります。皆さんのが意欲をもって取り組めば大いに効果があり、かならずや新しい世界が広がります。4年後の卒業式、編入や大学院入学の方は2年後あるいは3年後の卒業式の時に、我が大学生活に悔いはない総括して卒業できるよう、充実した楽しい大学生活となることを祈念しております。大学は全力を挙げて皆様の教育にあたることをお約束して、学長式辞といたします。

2018年4月1日
沖縄大学学長 仲地 博

OKINAWA UNIVERSITY News & Topics

2018年度 第2回オープンキャンパス



7月29日(日)に2018年度 第2回オープンキャンパスを開催しました!

今回は各学科のミニ講義、作文・小論文対策講座、入試説明の他、保護者向け説明会などを実施し、500名余の高校生、保護者の方々にご参加いただきました。

オープニングセレモニーでは、2019 大学案内パンフレットに載っている学生のパフォーマンスも披露され大盛況でした♪♪
次回は10月27日(土)に開催します!!

王ゼミ
クルーズ船見学

7月24日(火)、王志英ゼミ(国際コミュニケーション学科)の学生22名は、クルーズ船内の中国語表記について見学をしました。この日は香港から那覇港に寄港のアジア最大の客船「ボイジャー オブ ザ シーズ」に乗船。3年次の安里美咲さんは「初めて船内に入ったが、とても豪華で、一度はクルーズ船で世界を旅したい」と夢の洋上の街に目を輝かせていました。王先生は「様々な機会、場面で外国语に触れることで学生の進路になにかヒントになればとゼミ活動を広げている」と話していました。

国際交流ビーチパーティ



今年度は、中国、台湾、韓国、ネパール、ミャンマー、フィリピン、ベトナムから31名の留学生(学部生、大学院生、交換留学生)が本学で学んでいます。7月28日(土)、留学生・国際交流の恒例行事、あざまサンサンビーチでのビーチパーティを開催しました。バーベキューに海遊び、すいか割りやかき氷のフルコースを堪能し、途中は南城市ゆるキャラの「なんじい」登場に盛り上がりつつ、ゆっくりおしゃべり三昧、教務部職員も参加して笑顔の一日を過ごしました。

2018年度 新入生歓迎スポーツ大会



5月14日(月)に那覇市民体育館にて今年度の新入生歓迎スポーツ大会を実施しました。1年生の各ゼミを中心に全学年66チーム、総勢763名が参加し、バレー、ボーリーに汗を流しました。優勝から3位までの入賞は、上級生チームに軍配が上がりましたが、決勝トーナメントでは最後まで食らいつく1年生のチームも見られ、熱い戦いで盛り上がりました。

第555回 土曜教養講座

「食は沖縄を救う Part3 ~沖縄大学が管理栄養士を養成する意味~」



6月30日(土)、第555回目の土曜教養講座が開催されました。「食は沖縄を救う」企画の第3弾として、来年開設予定の管理栄養学科の意義について、また新学科の特徴にスポットをあてシンポジウムと討議が行われました。シンポジウムでは、医療機関や学校、研究機関の現場で活躍されている方々から管理栄養士の仕事と重要性について、そして本学新設予定の管理栄養学科の果たす役割についても語られました。当日は将来管理栄養士を目指している高校生からの質問等もあり、新学科への関心の高さが伺えました。

第556回 土曜教養講座
「今、沖縄に何が問われているのか?」

7月7日(土)、創立60周年記念講座の目玉企画として歴代の学長を迎えて、沖縄の進むべき未来をテーマに土曜教養講座が開催されました。これまで沖縄大学が沖縄のために何を果たしてきたのか、そして今の沖縄に提言できることは何かと桜井国俊元学長、加藤彰彦前学長による講演、仲地学長も加わっての討議が行われました。

沖縄の魅力ある自然や慣習を守りつつ、子どもの貧困問題や沖縄が抱える課題に立ち向かえる人材育成をどう目指すのかなど、幅広い議論が繰り広げられました。

また、本学が60周年を機に掲げた「OKIDAI VISION 2028 地域がキャンパス・地域のキャンパス」について仲地学長が長期ビジョン策定に関する説明を行い、沖縄大学の在り方については、沖縄の地域社会になくてはならない大学を目指すことが使命でないかとの提言もなされました。桜井元学長と加藤前学長からは地域の位置づけとして、沖縄という地理的優位性からアジアにも目を向けた大学づくりの必要性についても助言が及びました。

十数年前に沖縄で高校生として暮らしていた頃、卒業したら私は沖縄にはもう戻らないであろう、という予感を漠然と持っていた（が後年裏切られた）。沖縄が嫌いだつたわけではない。沖縄で働いていた自分がまるで想像できなかつたのである。自分の長所を活かし、情熱を持って取り組めるような魅力的な仕事はいつたいどこにあるのか。給料は古本屋で細々と散財できる程度に稼げれば満足だが、どうにも見渡す限り自分が生きる道はここにない。当時の私は「誰もが世界を変えたいと思うが、誰も自分自身を変えようとは思わない」というトルストイの指摘どんぴしゃりな少

私が専門とする空間経済学は、人や仕事がどこに集まりどこに集まらないのか、という問いに挑戦する古くて新しい分野である。経済活動が狭い空間に集まるこそを集積と呼ぶ。多様な人や企業が大都市に集積する理屈と、集積した結果何が起こるのかを科学的な論証手続きにのつとつて解き

中でも私は空間経済学から地域政策を考え直すことによって地域に産業を誘致しようと画策している状況を想像しよう。実際、沖縄県は県内への投資や企業立地を促進し、魅力的な仕事を地域に集めるべく、様々な制度的補助を用意している。ところが、このような誘致政策は沖縄の専売特許ではなく、他地域との奪い合いになる。企業にとつても、政府のサポートだけが立地の決め手ではない。産業誘致政策は吉と出るだろうか。

目下私がドイツの研究チームと共同で進めている研究では、日本の市町村ではこの種の誘致競争を行なうことが望ましいという結論を得ている。現状がビジネス・フレンドリーでなさすぎるためだ。しかし、誘致競争が現状よりよかつたとしても、ベストな方とは限らない。よりよい結果を導き世界を変える



地域や施設で医療・福祉サービスを利用している方々やご家族に生活史のインタビューをおこない、本にまとめてお贈りするという「聞き書き本」の製作に取り組んでいます。ゼミ生には、この活動をとおして、他者の話にじっくりと耳を傾ける、語ついた

これまでの「聞き書き本」の製作では、実際に様々な話を聞かせていただきました。戦争中の疎開先での暮らし、恋愛や結婚生活、周囲の反対を乗り越えて一人暮らしを実現させた障害の状態にいたときました。戦争中の疎開先での暮らし、恋愛や結婚生活、周囲の反対を乗り越えて一人暮らしを実現させた障害の状態にいたときました。戦争中の疎開

介護を必要とする息子さんとの日常生活など。歴史や地域文化、時には地図を確認して語り手の生活体験に想像を膨らませながら聞かせていただいた内容を文字に起こしていきます。

イラストや切り絵など装丁にも趣向を凝らして完成させた世

研究のひろば

産業誘致政策についての研究

法経学科 准教授

大城 淳



明かそうとしている。沖縄にはなぜ魅力的な仕事が集まらない（ように見える）のかについて洞察を与えることも期待できる。

中でも私は空間経済学から地域政策を考え直すことによって地域に産業を誘致しようと画策している状況を想像しよう。実際、沖縄県は県内への投資や企業立地を促進し、魅力的な仕事を地域に集めるべく、様々な制度的補助を用意している。ところが、このような誘致政策は沖縄の専売特許ではなく、他地域との奪い合いになる。企業にとつても、政府のサポートだけが立地の決め手ではない。産業誘致政策は吉と出るだろうか。

わがゼミナール

語りを聴くことを通して、 他者の人生に触れる —「聞き書き本」の製作—

福祉文化学科 准教授(ソーシャルワーク)

玉木 千賀子



インタビューを行う学生と玉木准教授（浦添 介護老人福祉施設アルカディア）

だいたい生い立ちや生活体験から、その人が生きるうえで大事にしていること・生活への願いについて考える、語ること・聞くことのもつ意味に気づく、という対人援助の基本を体験して欲しいと考えています。話を聞かせていただくのは、闘病や介護等の体験をされている方々です。そのため、インタビューをおこなう方々のケアに携わっている専門職から心身の状態や配慮を要する点について事前に確認し、安心して語ついていただけるよう面接態度や方法等の事前学習を行います。これらに沿って、ゼミ生たちは、話を聞かせていただく方の生きてきた軌跡を丁寧に辿るために、活動を知った人々から「聞き書き本」の製作の要望をいたいでいる。その要望に応えることがで、周囲の人々にも、人が懸命に生きることのかけがえのなさを教えることの実感するようです。

教師として

国際コミュニケーション学科 講師

天久 大輔



私が、AIという言葉を初めて耳にしたのは、2001年にスティーヴン・スピルバーグ監督によって映画化された「AI」であった。実際には、1950年代からAIという言葉が生まれ、人間の知的能力をコンピュータによって表そうという試みがすでに行われていた。去る6月に、「AI時代を生きる時代到来で、英語指導にどのような影響を及ぼすのだろうかと考えを巡らせていた。AI研究とは、人間が行う知的活動を人工物で実現しようという研究であり、DeepBlueやコンピュータ棋士の勝利の例から、現在著しく発展しているAI研究プロジェクトである。最近、家電販売店で音声自動翻訳機を目にする機会が多くなった。便利なツールであると感じると同時に、お互いの声を通して人の温かさを感じ、伝え合う喜びを知り、相手を理解する面白さが徐々に失われるのではない

かと危惧の念を抱いた。

シンポジウムにおいて、筑

波大学の鈴木健嗣氏は、AI

の著しい進化に対応するため、これからの大學生における教養教育において、学生は3つの能力を身につけていく必要性があると述べられました。1つ目に、創造力。学習者が、幅広い知識を有することを前提に、如何に問題を発見し、解決できる力である。次

に、多様力。コミュニケーションを通して、他者を理解し導く(リーダーとして)力の必要性があると伝えた。3つ目には、数理力。論理的に思考し物事を適切に考える力。

AIが高度な言語処理や、ディープラーニングなどの大量なデータをもとに学習効果を高めることができとなる現代において、人間として身に付けるべき知性は、AIが持つ知識には代替できないと解釈した。

また、さまざまなかつた。便利なツールであると感じると同時に、お互いの声を通して人の温かさを感じ、伝え合う喜びを知り、相手を理解する面白さが徐々に失われるのではない

かと危惧の念を抱いた。

シンポジウムにおいて、筑波大学の鈴木健嗣氏は、AI

の特性に応じて、学生の物の見方や、考え方を働くさせるこ

とで、創造する能力を引き出すことであると述べられていました。これは言語の授業においても同様である。単に思ったことを伝えるだけでなく、情報を精査して自己の考えを形成し、伝達できるようにALを行わなければ、学生の「深い学び」には繋がらない」と改めて痛感した。単にグループワークの形式で終わつてはいけない。そのような気持ちを私の中に再確認させてくれた。また、「深い学び」ができたかどうかの測定方法は不明確であると報告では伝えられた。確かに、「学びを評価する尺度が不正確な理由は「深い学び」の定義が一般的に曖昧だからではないか」と感じた。

本学においても、様々な科目を学生に提供し、また幅広い知識を身に付けさせていく中で、AL型講義をうまく活用できる場合と、なかなかうまくいかない場合が、様々な理由から発生しているのが現状である。学びを深めるために必要なのは、対話的・主体的に授業を行うことが現代のキーワードのように捉えられている。その中で、それぞれの学生の質を見定め、足りない知識を補い、教える立場の者は、柔軟に対応

していく必要があるのではないかと感じた。私自身、10年、20年後に学生へ対し英語をどのように指導していくべきか。また、次代に求められる英語教員養成の変化に合わせ、学校現場で教師としての必要な資質・能力をどのように学生に身に付けさせなければならないか。AIと改めて痛感した。単にグループワークの形式で終わつてはいけない。そのような気持ちは私の中に再確認させてくれた。また、「深い学び」ができたかどうかの測定方法は不明確であると報告では伝えられた。確かに、「学びを評価する尺度が不正確な理由は「深い学び」の定義が一般的に曖昧だからではないか」と感じた。

本学においても、様々な科目を学生に提供し、また幅広い知識を身に付けさせていく中で、AL型講義をうまく活用できる場合と、なかなかうまくいかない場合が、様々な理由から発生しているのが現状である。学びを深めるために必要なのは、対話的・主体的に授業を行うことが現代のキーワードのように捉えられている。その中で、それぞれの学生の質を見定め、足りない知識を補い、教える立場の者は、柔軟に対応

していく必要があるのではないかと感じた。私自身、10年、20年後に学生へ対し英語をどのように指導していくべきか。また、次代に求められる英語教員養成の変化に合わせ、学校現場で教師としての必要な資質・能力をどのように学生に身に付けさせなければならないか。AIと改めて痛感した。単にグループワークの形式で終わつてはいけない。そのような気持ちは私の中に再確認させてくれた。また、「深い学び」ができたかどうかの測定方法は不明確であると報告では伝えられた。確かに、「学びを評価する尺度が不正確な理由は「深い学び」の定義が一般的に曖昧だからではないか」と感じた。

本学においても、様々な科目を学生に提供し、また幅広い知識を身に付けさせていく中で、AL型講義をうまく活用できる場合と、なかなかうまくいかない場合が、様々な理由から発生しているのが現状である。学びを深めるために必要なのは、対話的・主体的に授業を行うことが現代のキーワードのように捉えられている。その中で、それぞれの学生の質を見定め、足りない知識を補い、教える立場の者は、柔軟に対応



私たち沖縄大学陸上競技部は、トラック競技では短距離・中長距離選手が在籍し、フィールド競技では投擲選手が在籍しています。これまでの実績は九州インカレにて男子4×100mリレーでの準優勝が2回、男子100m入賞、沖縄県選手権にて男子4×100mリレー、800m、110mH優勝などです。

活動場所は主に南風原町の黄金森競技場を拠点とし、那覇市にある奥武山公園陸上競技場においても長距離種目と投擲種目の練習を行っておりますが、2017年度より沖縄大学アネックスグラウンドが整備され、短距離種目と投擲種目の練習で活用させてもらっています。

今年の目標は、自己ベスト更新・県内大会での入賞・県外大会に出るための標準記録突破、駅伝大会への出場など、個人・種目によって違いはありますが、チームでの最大目標は日本インカレへの出場であり標準記録突破や予選大会にて入賞することです。

また、大学の強化競技部としてサポートされていることや、陸上競技部のOB・OG会、監督・コーチのサポート体制がしっかりと整い、部員仲良く、楽しく過ごしています。今後ともチーム目標へ向け、一人一人が成長できるように頑張りたいと思いますので、応援の程、お願いします。

(福祉文化学科3年 兼田将吾)



陸上競技部



■第5回投てき記録会

【男子A(一般・高校)ハンマー投げ 決勝】

新川ゲイブリエル優雅(福祉文化学科1年@中部商業高)
1位! 48m39

■第69回沖縄陸上競技選手権大会兼国体選考会

(2018/5/5~5/6 @沖縄県総合運動公園陸上競技場)

【男子一般 3000mSC 決勝】

三ツ岩森之(こども文化学科1年@北山高) 3位!
9:52.61

【男子一般 ハンマー投げ 決勝】

新川ゲイブリエル優雅 2位! 49m15

■第88回九州学生陸上競技対校選手権大会

(2018/5/18~5/20 東平尾公園博多の森陸上競技場@福岡県)

【男子 100m】

當眞裕登(福祉文化学科4年@名護高) 結果: 準決勝進出
(予選) 11.01 (+1.4)



男子バスケットボール部

沖縄県大学バスケットボール選手権大会で
男子バスケットボール部が昨年に続き 2連覇達成



6月17日に第21回沖縄県大学バスケットボール選手権大会が開催され、男子バスケットボール部が優勝しました。同部は昨年度に続き、見事2連覇を達成しました。

硬式野球部

九州地区大学野球選手権南部九州ブロック大会、
沖縄県大学野球フレッシュリーグで好成績



法経学科4年の與那嶺光

また、5月26日から6月2日に開催された、第20回沖縄県大学野球フレッシュリーグ戦においては見事優勝し、殊勲賞に松永太地さん（法経学科2年）が、打撃賞（1位）に赤嶺里樹さん（法経学科2年）が選ばされました。

第99回九州地区大学野球選手権南部九州ブロック大会沖縄地区予選が3月31日から5月5日に開催され、硬式野球部が見事準優勝を果たし、表彰選手として法経学科4年の與那嶺光さんが敢闘賞に、法経学科2年の仲地玖礼さんが新人賞に選ばされました。



法経学科2年の仲地玖礼

体・育・会・競・技・部・の・活・動・報・告

体・育・会・競・技・部・の・活・動・報・告

空手道部

■第28回県学生空手道選手権大会

(2018/4/29 @沖縄空手会館)

【男子個人形】ベスト4 高良渉（福祉文化学科2年）

ベスト8 成海明彗雅（福祉文化学科4年）

【男子個人組手】準優勝！久保田洸平（法経学科4年）

ベスト4 米原駿（法経学科2年）

■第59回全九州学生空手道選手権大会

(2018/5/12～5/14 ツワヅキ武道館（宮崎県）)

【男子個人形】準優勝！成海明彗雅

男子バレーボール部

■平成30年度平安杯第73回国民体育大会成年男女6人制

バレーボール選手権大会沖縄県選手選考

(2018/4/29 琉球大学)

結果：準優勝！

卓球部

■平成30年度春季一般卓球団体戦

(2018/4/22 県総合体育館)

【男子団体戦】結果：準優勝！3部予選リーグ

(1位：3勝0敗)

■第69回全九州学生春季卓球選手権大会

(2018/5/18 熊本市総合体育館)

【男子団体戦5部リーグ】結果：リーグ1位！

<表彰選手>

殊勲賞（男子団体5部）：稲嶺盛真（福祉文化学科1年）

最優秀ペア賞（男子団体5部）：稲嶺盛真・諸見里安晃（法経学科1年）

リレーエッセイ第13回

オジさん達の模合旅行 敬城

経理課

「東北に行くんだったら、太宰の青森か賢治の岩手だろう。仙台、福島へほぼ決まりかけていた模合旅行について、自分の意見を言つたところ、特に反対意見もなく、青森に行くことになつた。太宰ファンとしては、太宰が生まれた斜陽館に行きたいとの思いだけで、青森の観光地には余り興味もなく、特に期待もしていなかつた。

旅行当日、模合仲間のオジさん五人組は、羽田経由で青森空港へ空港でレンタカーを借り、一路八甲田山へと向かう。八甲田山は麓から口一ヶ所。奥入瀬溪流（おいらせけいりゆう）へと向かつたのであつた。

奥入瀬溪流は、行ってみると、「単なる川だよね」ということで、まったく期待し

ていなかつた。ところが、実際に行つてみると、これが「素晴らしい」の一言。川のせせらぎ、鮮やかな緑の木々、木々からの木漏れ日、初夏の爽やかな風。がさつな我らがオジさんは、感動し、「いいね」の連中も、感動し、「いいね」の連続中も、感動し、「いいね」の連続旅行について、奥入瀬の感動もさめやらぬまま、一日目の宿泊地、星野リゾート「奥入瀬溪流ホテル」へ。このホテルがまた素晴らしかつた。ホテルのすぐそばを奥入瀬溪流が流れていると、いう抜群のロケーション。ホテルスピタリティ溢れるホテルスタッフ。一日目にして、すつかり青森ファンになつたオジさんは、見送りに来るというオマケまでついて、沖縄への帰路にんじん達があつた。

二日目は、まずは十和田湖の遊覧船に乗ることになつた。我らの他に乗つてゐる客も少なく、船内を流れる十和田湖の案内アナウンスの物悲しさとあいまつて、どこか寂しい気持ちになつてくるのであつた。

十和田湖の次は、太宰の生家「斜陽館」へ。こういうところで太宰は生活していたのかと思うと感慨深いものがあつた。ある部屋には黒マントがおいてあり、そのマントを着ると気分はすっかり太宰となるのであつた。

その後、斜陽館の近くの食



筆者：後方左から3番目

堂へ。」ほんを食べていると、太宰ファンで有名なピース・又吉に遭遇した。斜陽館でテレビ録画を行つていたらしい。われらオジさん五人組をみて、はずかしそうに「ここにちは」と挨拶した。もともと好きな芸人あつたが、恥ずかしそうな芸風そのままの挨拶に、ますます好感をもつてしまつた。

このようにして楽しい二泊三日の青森・模合旅行は終わつた。空港には、前日の夜に飲んだスナックのおねえさんが見送りに来ると、いうオマケまでついて、沖縄への帰路に着いたのであつた。

さて、次回のリレーエッセーは沖大のご意見番こと、経営企画室の名幸妙子さんです。

